



小説家。英文学者。江戸牛込馬場下横町(現、東京都新宿区)に生まれる。本名は金之助。帝国大学文科大学(現、東京大学)英文学科を卒業し、愛媛県尋常中学校(現、県立松山東高等学校)の英語教師として松山に赴任。正岡子規と愚陀佛庵に同居し、俳句に目覚める。ロンドン留学の後、高浜虚子のすすめで「吾輩は猫である」を『ホトゝギス』に連載、文名を挙げる。これが機縁で文学生活に入り「坊っちゃん」、「草枕」などを発表する。以後、朝日新聞社に入社し「三四郎」、「こゝろ」「虞美人草」などの作品を連載し、文豪として不動の地位を築いた。

略歴

慶応3(1867)年1月5日	江戸牛込馬場下横町に生まれる。
慶応4(1868)年	塩原家の養子となる。
明治21(1888)年	夏目家に復籍する。第一高等中学校(現、東京大学)本科英文科に入学する。
明治22(1889)年	正岡子規を知る。
明治23(1890)年	第一高等中学校を卒業、帝国大学文科大学英文学科に入学する。
明治26(1893)年	大学を卒業し、大学院に進学。高等師範学校(現、筑波大学)の英語嘱託となる。
明治28(1895)年4月	愛媛県尋常中学校に英語科教師として赴任
8月	子規が松山に帰り漱石の下宿に住む。
明治29(1896)年	熊本の第五高等学校(現、熊本大学)講師として赴任する。同校の教授となる。
明治33(1900)年	イギリスに留学をする(2年間)
明治38(1905)年	「吾輩は猫である」を『ホトゝギス』に発表
明治39(1906)年	「坊っちゃん」を『ホトゝギス』に発表。「草枕」、「二百十日」を発表
明治40(1907)年	朝日新聞社に入社する。「虞美人草」を連載する。
明治44(1911)年	文学博士号を辞退
大正5(1916)年4月	糖尿病と診断され真鍋嘉一郎の治療を受ける。
12月9日	胃潰瘍のため50歳で永眠。墓所は、東京都豊島区南池袋の雑司ヶ谷霊園 (写真提供：松山市立子規記念博物館)

〈関連図書〉

- ・夏目金之助『漱石俳句集』 岩波書店 1917年
- ・江藤淳『漱石とその時代第一部』 新潮社 1970年
- ・佐藤亮一『夏目漱石』 新潮社 1983年
- ・夏目金之助『漱石全集』(全27巻) 岩波書店 1997年
- ・中村英利子『漱石と松山 子規から始まった松山との深い関わり』 アトラス出版 2001年
- ・坪内稔典・中居由美『漱石松山百句』 創風社出版 2007年
- ・坪内稔典・あざ蓉子『漱石熊本百句』 創風社出版 2007年
- ・江戸東京博物館・東北大学『文豪・夏目漱石 そのこころとまなざし』 朝日新聞社 2007年

〈主な収蔵資料〉…(P221, 110~111)

〈ゆかりのある場所〉…(P305~307, 168~174)

〈関連施設〉…鎌倉文学館

〒248-0016 神奈川県鎌倉市長谷1-5-3 TEL: 0467-23-3911

夏目漱石内坪井旧居

〒860-0077 熊本県熊本市中央区内坪井町4-22 TEL: 096-325-9127

くまもと文学・歴史館

〒862-8612 熊本県熊本市中央区出水2丁目5番1号 TEL: 096-384-5000